

魅力再発見！ わが町の伝統文化

大川組子

家具の産地として知られる福岡県の大川市。

実は、木工産業全般が盛んで、そのひとつとして

日本でも有数の「建具」の産地でもあります。

今回は、そんな大川の建具職人の技術が生んだ、

伝統工芸「大川組子」をご紹介します。

そもそも建具とは、住まいの開閉部に取り付けられる「仕切り」のこと。その特徴のひとつが「動き」があることです。玄関や部屋の扉はもちろん、和室の障子に押入れの襖も動くものは全て「建具」というわけです。

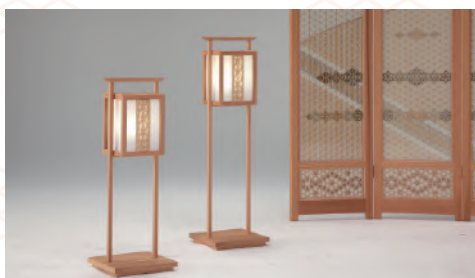
腕自慢の建具職人が揃う大川では、建具の装飾のひとつとして組子の文化が受け継がれています。組子とは、釘を使わずに木と木を組み合わせ、繊細な幾何学模様を描き出す伝統技術。一つの組子のなかに、小さな木片のパーツが組み込まれていて、複数の図柄が描き出されます。

大川で三代続く仁田原建具製作所では、父親の進一さんのもと、二人の息子さんによつ



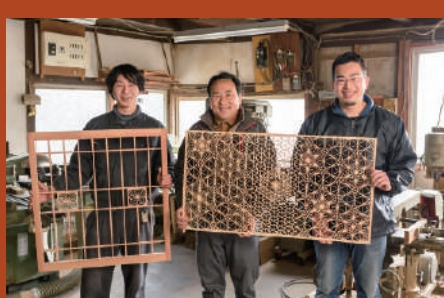
伝統を継承しながらも、世界で通用する新しい時代の組子を模索中

てその組子の技が受け継がれています。「組子の加工は、非常に繊細な技術が求められるため、わずかなズレでも全体の仕上がりに影響してしまうんです」と、語ります。そのため、0.01ミリ単位の感覚を養っているのだとか。デザインにあわせた角度や長さの調整なども、細かなものが必要とされています。一人前の組子職人になるには、10年を超える年月を要するとも言われているそうです。また、組子は美術品としての評価も高く得ています。その美しい図柄を用い、衝立や欄間、最近では照明などのインテリアにも幅広く展開。国内だけでなく、世界でも注目を集めています。



照明や衝立などさまざまな小物にも組子は使われている

取材協力



仁田原建具製作所

☎ 831-0005 福岡県大川市大字向島924-6

